文化庁月報

No.445
2005年10月号

CONTENTS

文化人の本音　河合隼雄文化庁長官対談　第43回　ゲスト 杉本　洋さん●日本画家，文化庁文化交流使
日本文化を立体的に伝えたい ……4
長官コラム　文化庁の抜穴 ……9

特集　文化財の災害対策
文化庁提言
文化財の災害対策への取組 ……文化財部・10
寄稿
第一回文化財の防災計画に関する研究会　文化財防災への道 ……加藤　寛・16
事例紹介
文化財建造物の倒木災害　防げなかった長谷寺本堂の被害 ……今西良男・18
新潟県中越地震における被害と修復事業 ……竹内俊道・20

連載
いきいきミュージアム　美術館・博物館事業レポート 43
佐倉市立美術館(千葉県) ……22
芸術文化の風 7
パンソリ公開講座　大阪・沖縄レポート（猪又宏治）……23
著作権Q＆A　『著作権なるほど質問箱』から 7
著作権はいつまで保護されるの？ ……24
文化交流使の活動報告 19
杉　葉子(女優) ……25
伝建地区を見守る人々　伝建歳時記 19
まちづくりは人づくり　佐原っ子の底力(千葉県佐原市佐原)……26
史跡を楽しむ 7
史跡椿井大塚山古墳と高麗寺跡(京都府山城町) ……28
言葉をみつめる 7
敬語の効果的な使い方 ……29
地域からの「文化力」発信 7
青春の夢　青い森かけめぐり　文化の虹ときらめいて
第29回全国高等学校総合文化祭 あおもり'05……30
1万回の公演を迎えた「琉球舞踊館うどい」(沖縄) ……31
文化人in関西　関西元気文化圏で活躍する人々 7
市民活動の頼りになる存在　街のデザイナー
今竹翠さん(兵庫県西宮市) ……32
風を呼ぼう，わが町に　登録有形文化財建造物との歩み 19
ぶどうとワインの郷を支えた近代化遺産　新たな出発……33
日本の伝統美と技を守る人々　重要無形文化財保持者の団体編 3
重要無形文化財　能楽 ……34
国宝・重要文化財をもっと楽しむ方法　文化財鑑賞の手引き　31
獅子―瑞獣と守護獣― ……35
日韓友情年事業紹介 4
フィナーレに向け，盛り上がる交流事業 ……36

文化庁ニュース
第55回全国民俗芸能大会 ……37
第52回文化財保護強調週間 ……37
「文化芸術懇談会(青森県)」の開催 ……38

イベント案内
東京国立博物館
特別展　北斎展 ……39
奈良国立博物館
第五十七回　正倉院展……40
九州国立博物館
九州国立博物館開館記念特別展　美の国　日本 ……41
京都国立近代美術館
須田国太郎展 ……42
国立西洋美術館
《ローマの景観》ピラネージのまなざし ……43
国立国際美術館
企画展　瑛九　フォト・デッサン展 ……44

新国立劇場スポットライト ……45
11月の国立劇場 ……46
芸術文化振興基金ニュース ……47

今月の表紙
神戸市北野町山本通保存地区
（重要伝統的建造物群保存地区）
撮影：三沢博昭

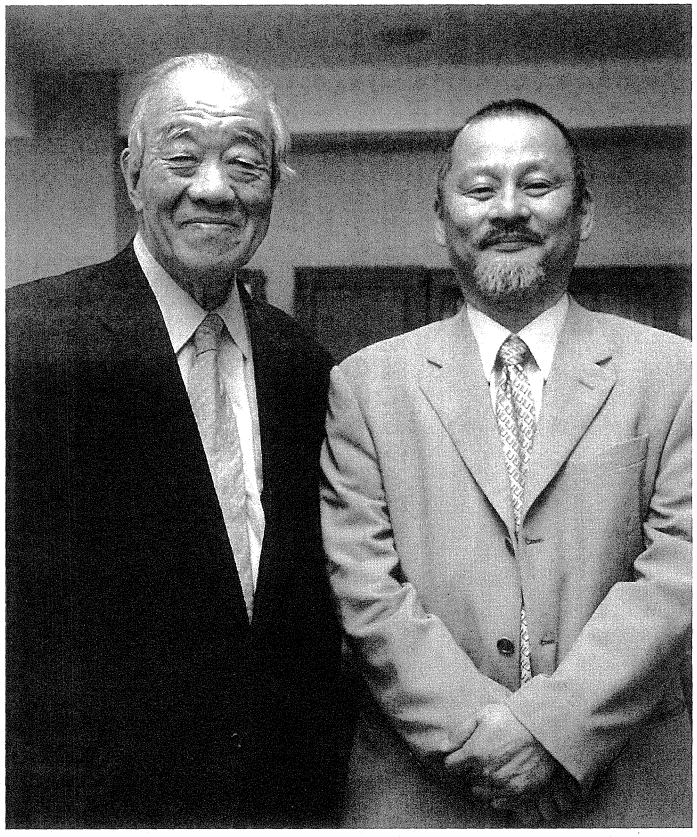
題字デザイン　桑山弥三郎

文化人の本音

河合隼雄文化庁長官対談 第四三回●ゲスト

日本文化を立体的に伝えたい

杉本　洋さん●日本画家、文化庁文化交流使



ベーシックはアジア

河合　お忙しいところをありがとうございます。日本画をお始めになったのはご幼少のころからですか。

杉本　そうです。生まれ育ったころの東京の荻窪に、画家が多く住んでいまして、特に日本画家が多くいらしたため小さいころから日本画にはわりと親しんでいました。絵が好きだったこともあります。

河合　ご幼少のころから絵を描いていこうと思っておられたようですが、その中でも墨絵に興味をもたれたのはなぜですか。

杉本　芸大の学生のころの描き方は、絵の具を厚く塗っていくという描き方が主流でした。今でもそういう部分がありますが、その描き方ですと紙や絵の具を殺してしまう部分があり、紙がまったく見えなくなってしまいます。もっと絵の具や紙を大事にしながら描いていこうとするうちに、究極的に墨と紙のつながりが一番ピタッときました。それに少し色があり、金や銀が入っているものが好きだなと思い、今そのような仕事をやっているところです。

河合　西洋画家は、紙を大事にするとはあまり思わないでしょうけどね。

杉本　大学でも日本画を学びましたが、今まで受けた美術教育というものは西洋絵画がベースになった教育でした。その中で日本画を描いてきましたが、西洋画と日本画のギャップがどうしても埋められないところがありました。

　それを確認する意味で、二十代半ばにリュックサックをしょってヨーロッパを歩きました。そのときに、自分のベーシックはアジアだということ、本当に勉強しなくてはいけないことは日本の京都とか奈良にあったということに、気がつきました。西洋美術を確かめに行ったことにより、ある意味のアイデンティティを知るきっかけとなったと思います。

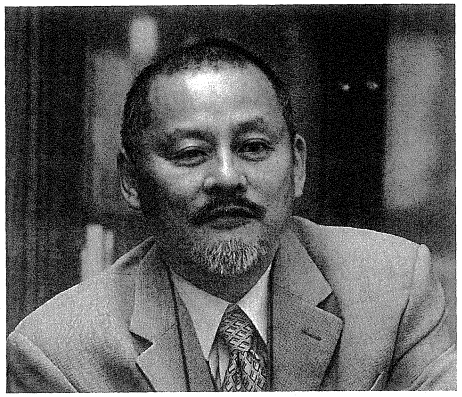
　それから、アジアの中に流れているものを自分の体で知りたいと思い、アジアを歩く中で〈何だ、これは日本と同じじゃないか〉とか、〈日本と似てるな〉ということがありました。

文化交流使としてカナダへ

河合　文化交流使としてご活動いただきまして、本当にありがとうございました。カナダへ行かれたんですね。カナダを特に選ばれた理由はあるのですか。

杉本　アジアを見て、モンゴロイドなど環太平洋の人々に興味をもちました。ネイティブ・カナディアンやネイティブ・アメリカンは、ルーツがみんな同じではないかと。そのような興味をもっているところへ、ビクトリア美術館から「展覧会をやってみないか」という企画のお話をいただいて、それはもうぜひと快諾しました。その展覧会の期間も、三か月から四か月といった長い期間行うものでした。

河合　三か月間もやるわけですから、内容もすごいものでしょう。



すぎもと・ひろし　東京都出身。
1977年東京芸術大学大学院日本画科修了。96年にベトナム山岳少数民族集落で和紙の紹介と現地調査等を行う。98年にはベトナム，中国，ミャンマーの紙の特性を生かし，墨で作品を制作。2000年にはイタリア古典絵画描法をアレンジし，墨，和紙，金属箔で作品を制作。02年には中国，カンボジアの古民家，遺跡，仏像をテーマにそれぞれの国の紙で作品を制作。03年には石州和紙を使用した作品展を行い，地域住民と子どもたちの参加による扇面制作のワークショップなどを実施した。
おもな作品には，秋篠宮家扇面制作，出雲大社大阪分祠屏風絵制作（大阪府堺市），京濱伏見稲荷神社参集殿壁画制作（神奈川県川崎市）などがある。

杉本　ただ絵を並べるだけでは、何か自分の中でも物足りなさを感じまして、せっかく滞在しているならば参加型の展覧会だと思い、作家がそこにいて公開制作もしながら質問に答えたり、ギャラリートーク、講演、ワークショップや実演などをしました。美術館自体も地元の住民、小学生、中学生、あらゆる年齢層の人たちに向けて毎週のように企画を実施し、人を集めました。だから、本当に何千人、何万人といらっしゃるというのがよくわかりました。そういう中に入って、逆にいろんなことを教えていただきました。

河合　どうですか、向こうの人の関心や、おもしろい質問とか、びっくりするようなものはありますか。

杉本　こちらが思ってるよりもよくご存じな方がいて、僕が逆に「こういうのはどういうものなんでしょうか」と質問できるくらいに仏教に詳しい方がいたり、外国の方なのに我々日本人より日本のことをよく知っている方がいたり。そういうことではびっくりすることがありました。

河合　扇面制作のワークショップをやられたわけでしょう。反響はいかがでしたか。

杉本　皆さんに、パンフレットに載っている作品と同じようなものを自分でつくってください、というワークショップをしました。ですから、展示されている作品に使っている材料、絵の具、箔や紙を使って実際に自分で体験していただいて、この絵はこういうもので描かれているということを指導させていただいたり、技術的なアドバイスをしました。

　それから、扇子の歴史についてお話をしました。日本で開閉式の扇子が生まれ、それが天平時代に主要な輸出品で中国に渡ってヨーロッパのほうに広がりました。日本の紙と竹でできているものが、天平時代から世界に広がり同時に世界からも日本に入ってきているということや、奈良時代から扇子が日本の中で茶道、落語、能から冠婚葬祭までいろいろなところになくてはならないものになっているというお話をしながら、扇子に実際に絵を描いていただき、描いたものを京都の職人さんに仕立てていただいて、送り返して皆さんにお配りしました。

河合　喜ばれたでしょう。

杉本　はい。思ったよりも全然違うものになっているとか、すばらしいとか、それはとにかく喜ばれました。

河合　やっぱりいい作品は出てきますか。

杉本　ありますね。知らない間に自分の中で形を決めていたり、こういうものだと思っていたものを、まったく違う形で描かれたりして驚きました。また、これはある地方都市でワークショップをしたときですが、その都市の市長さんもワークショップに参加されており、市長さんが「このワークショップに参加したらば、小学校や中学校、高等学校でも出席扱いにするから参加しろ」というので、学校へ行きたくなくて絵を描きたい子は（笑）みんなワークショップへ来て、市長と一緒に参加しました。すごく熱心で絵が好きな子ばかりで、漢字の辞書を持ってきて、「この漢字はどういう意味なんだ」とか、その字と絵を組み合わせた扇子をつくりたいという小学生やいろいろな方がいました。

文化交流のおもしろさと難しさ

河合　ネイティブ・カナディアンの方とも交流されましたが、いかがでしたか。

杉本　作家や画家は、物をつくる以前の人間としての形がとても似ているし、考え方も似ています。特にネイティブ・カナディアンの作家の方は、絵を描くと言うことは神聖なことだという考えをおもちでした。

河合　ネイティブ・カナディアンの人も描いたりされましたか。

杉本　はい。クイーン・シャーロットにも行きました。そこのハイダ族の生活はどういうものだろうと、飛行場に降り空を見て、海を見た途端に〈この絵はこの雲の形なんだ〉とか、すべて自然の形をこういうふうにしているんだ、全部がそこにあるんだと思いました。自然の形が自然に祈りの形になっていったり、人間の営みにつながったりというものを深く感じました。住んでる場所と自分たちが一体というか。

河合　生きてることが全部芸術になって、宗教になってますからね。

杉本　深くお話しする時間もなかったのですけれど、今回の文化交流使の活動をきっかけに交流が深まりました。今月もまたカナダのイベントに参加することになっています。

河合　まだずっとつながっておられるわけですから、深めていけますね。

　ところで、先生は能楽にもずいぶん関わられていますね。

杉本　詳しいというわけじゃないですけれど、能の中にも四つぐらいの要素で日本画が入っています。一番目に入るのが能舞台の鏡板の老松です。仕舞扇の中も日本画で描かれており、能面の表も木を彫った後に日本画の絵の具を使用し、能装束の衣装もデザインは日本画的なものを用いています。

　三か月間の展覧会では、美術館で能を紹介するということで、ワークショップや館内で能楽ライブを行い、音楽や演劇的な見地からでなく、美術的見地から能を紹介して、描いている絵の世界と能楽のつながりや日本の文化の立体的な紹介を心がけました。観世のシテ方の友人に来てもらい、会場の中の舞台に下着で出てきて、まず裝束をつけるところ、次に一々しわを糸でとめたりするをのを見ていただいたり、面をつけるところなど準備を全部見ていただいてから演目に入るという形で能を紹介しました。

　日本画がただ平面の中におさまっているのではなく、室町時代にも絵というも

のを襖や天井に描いたり、掛け軸、屏風のように巻いたり折ったりたたんだり、さまざまな形で絵が描かれていて、その絵がまた演劇の中にも入ってきていることを総合芸術として紹介できたと思います。

河合　文化を総合的に紹介することは、これからの日本文化紹介のときに考えなければいけないことですね。

杉本　いろいろなものとつなげながら紹介するのが、一番わかっていただきやすいような気がします。絵だけとか、能だけとか、邦楽の三味線だけではなく、それを包んでいる世界を紹介すると他のジャンルの方ももっと理解していただきやすいと思います。

河合　これから文化交流使で行ってもらうときにも、それはいろいろと参考になることですね。

杉本　そのためにも、文化交流使同士の交流が大事だなと感じました。

河合　それは確かに大事なことですね。下手したら茶道は茶道だけ、華道は華道だけの紹介になりますよね。考えてみたら、茶道と華道が絵と関係ないということはあり得ないわけですよ。

杉本　そうです。例えば茶道ということでは焼き物などがかかわってきます。それにかかわっている方たちを集めて空間をみんなで共有し、日本の文化空間を紹介して、その一つずつをつまんでまた大きく紹介していくというようなことも大事なことだと思います。ばらばらにすると効果が薄れてしまうこともあります。

日本文化の国際発信のために

河合　日本文化は絵画だけではなく、いろいろなことを海外へもっと発信していかなければと思っていますが、文化交流使で行っていただいたご経験も踏まえて、日本文化全体がこれから外国に対して発信していくのに、どういう点を考えたらいいと思われますか。

杉本　先ほどから申し上げているように、立体的な紹介ということですね。それと活動する地域にネットがあることです。メディアも含めて、大学、美術館、図書館、コンサートホール、劇場、日本人会、日系社会とのネットができていて、それを受けてくれるシステムができていて、立体的なものを持ち込んでトータルして紹介していくのが一番効果があると思います。

河合　やはり三か月おられるというのは大きいですね。行ってパッと公演したり、絵を見せて終わりというのはだめだと思います。

杉本　あまり意味がないと思います。物故作家ではなく生きているのですから、滞在して、現地で作品を展示しながら、観ていただいた方とのコミュニケーションをもたれると良いと思います。これは絵だけじゃなくて、すべてみんな……。

河合　全部そうです。これからそれをもっと考えるべきだと思います。今の日本では一回公演が多過ぎます。そして向こうの人が質問したいころにはいないというようなこともあります。三か月いれば、長期間ですからね。

杉本　ぜひ文化交流使同士の交流を含めて、今まで僕の前にも後にもいろんな方たちがいらっしゃるので、そういう方たちが行ったときの情報を交換しながら続けていけるといいと思います。

カナダもそうですけれど、扇子のワークショップをやることによって、扇子組合のようなところの人たちがものすごく興味をもってくれました。バレンシアから江戸の扇子とイベリア半島のフラメンコの扇子の交流展を考えていたら、先方から「やってみませんか」という話も出てきました。

また、スペインではフラメンコだけでなく、オペラ、バレエ、サルスエラという大衆オペラで扇子を使ったりするものがあるようです。扇子を通じて文化交流をして、日本の文化を立体的に紹介したり、扇子一つでいろんなジャンルの人たちがかかわって、いろんな交流ができたら楽しいと思っています。

河合　一発勝負型ではなく、立体的な交流を行うべきですね。交流も単にお話だけではなく自分の仕事を通じてだんだん深まっていくわけでしょう。

杉本　文化交流使で三か月行かせていただいたことによって、自分の中で一皮脱皮できて、またいろんなところに向かって仕事ができそうな気がして楽しみです。

河合　我々にとってもそれは非常にありがたい話です。また、文化交流使の方のご活躍を発表する文化交流使活動報告会がすごくおもしろいので、もっとうまくアレンジすることを考えていこうと思っています。今日はいろいろとありがとうございました。

（了）

文化庁の抜穴

河合隼雄

韓国の高校生と共演

文化庁の主催する文化芸術懇談会を全国の各地で開催し、私はそれによってその土地の人々と意見交換をしたり、伝統芸能を鑑賞させていただいたりしている。

七月末には青森で開催したが、今度は高校生たちとともにすることにした。と言うのは、折しも全国高等学校総合文化祭が開かれているので、それと兼ね合わせてすることで、いろいろ便宜がはかれると考えたからである。

青森明の星高等学校で行ったが、高総文祭に海外から参加している韓国の学生さんたちも、文化について発表され、それに韓国の高校生のフルートを吹く方と私が共演できたことが何よりもうれしいことであった。

デュエットで「アリラン」を演奏。それにアンコールには、青森明の星高等学校の弦楽合奏団に私も韓国の高校生もともに加わって演奏した。まさに「日韓友情年」にふさわしいことで、出演者も聴衆も心がつながり、ほんとうにすばらしい時を過ごすことができた。

●11月号予告

◆長官対談◆
【文化人の本音】河合隼雄文化庁長官対談
前　登志夫　歌人
【長官コラム文化庁の抜穴】

◆特集◆
芸術祭六〇周年記念
【文化庁提言】
第六〇回記念芸術祭を迎えて
【概要】
第六〇回記念芸術祭の概要
【報告】
「芸術祭第六〇回記念の夕べ」報告
オープニングイベント報告
【事業紹介】
イベントスケジュール

◆文化庁ニュース◆
第五二回日本伝統工芸展　ほか

◆連載◆
【いきいきミュージアム　美術館・博物館事業レポート】
和歌山県立近代美術館
【芸術文化の風】
日本映画、新しい時代へ
【著作権Q&A『著作権なるほど質問箱』から】
著作物を利用するにはどうすればいいの？
【文化交流使の活動報告】
橋口譲二・写真家
【伝建地区を見守る人々　伝建歳時記】
来んさい　見んさい　寄りんさい
【史跡を楽しむ】
史跡津山城跡
【言葉をみつめる】
方言の文法いろいろ
【地域からの「文化力」発信】
本物の舞台芸術体験事業（学校公演）
【「文化人ぶんがぶと」in 関西　関西元気文化圏で活躍する人々】
長浜から文化力！を実践
【風を呼ぼう、わが町に　登録有形文化財建造物との歩み】
地域資源の再発見　廃線跡とコンクリートアーチ橋の活用
【日本の伝統美と技を守る人々】
伝統組踊保存会・組踊
【国宝・重要文化財をもっと楽しむ方法】
大鎧
【文化財をめぐるパートナーシップ】
京町家の保存・再生をめぐるネットワーク

編集後記

今月号では「文化財の災害対策」をテーマに特集しました。昨年の新潟県中越地震、今年に入って、福岡県西方沖地震、宮城県沖の地震など、大規模な地震が数多く発生しています。また、昨年は数多くの台風が日本に上陸し、豪雨によって各地に被害をもたらしました。このことから、文化財についてのさまざまな災害対策の需要が高まっています。

文化庁では、文化財保存修理事業や災害復旧事業、防災施設整備事業や文化財防火デー（毎年一月二六日）での防災訓練など、文化財の災害対策に関してさまざまな事業を実施しております。また、今年度から文化財の総合的な震災対策に関する調査研究を行い、近年の状況も踏まえつつさまざまな角度から検討を進めています。

大切な国民の共有財産である文化財を災害から守り、後世に伝えていけるよう、今後も文化財の災害対策を実施していきたいと考えています。（伝）

＜お詫びと訂正＞
本誌17年9月号の「目次」のうち、連載「いきいきミュージアム　美術館・博物館事業レポート42」の『福島県立美術館』は『福島県立博物館』の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

美術館・博物館チケットプレゼント

今月号の展覧会等のチケットプレゼントは，
A　東京国立博物館
「北斎展」3組（ペア）
B　九州国立博物館
「美の国　日本」3組（ペア）
です。ご希望の方はアンケートハガキのチケット応募欄に必要事項をご記入のうえ，11月2日（水）までにご投函ください（当日消印有効）。
＊チケット発送をもって当選発表にかえさせていただきます。

文化庁では，ホームページで，文化庁に関する情報を幅広く提供しています。ご意見，文化庁月報の感想などを，ホームページのご意見欄へお寄せください。

●ホームページアドレス●
http://www.bunka.go.jp

文化庁月報　10月号（通巻445）

平成17年10月25日印刷・発行

編集――文化庁
〒100-8959　東京都千代田区丸の内2-5-1
発行――株式会社 ぎょうせい
本社　〒104-0061　東京都中央区銀座7-4-12
本部　〒167-8088　東京都杉並区荻窪4-30-16
電話　編集　03（3571）2126
販売　03（5349）6666
URL：http://www.gyosei.co.jp
印刷所―ぎょうせいデジタル株式会社

●本誌の掲載のうち，意見にわたる部分については，筆者個人の見解であることをお断りいたします。

定価540円　本体514円　送料76円
年間購読料6,480円
本誌のご購読のお申し込みは，直接弊社の本・支社，あるいは最寄りの書店へお申し込みください。

広告の問い合わせ・申し込み先
（株）ぎょうせい営業部広告課
電話03（5349）6657（ダイヤルイン）
©2005 Printed in Japan　ISSN 0916-9849

本誌は本文用紙に再生紙を使用しております。